

経営比較分析表（令和4年度決算）

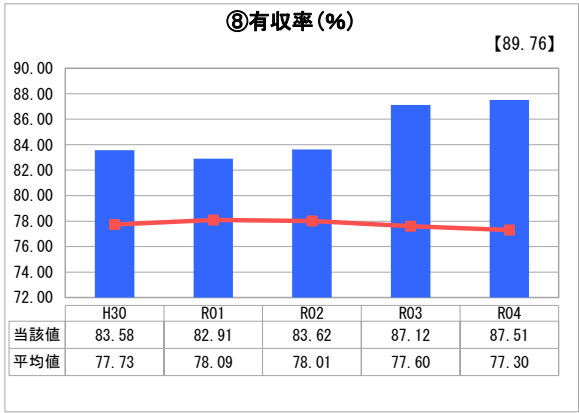
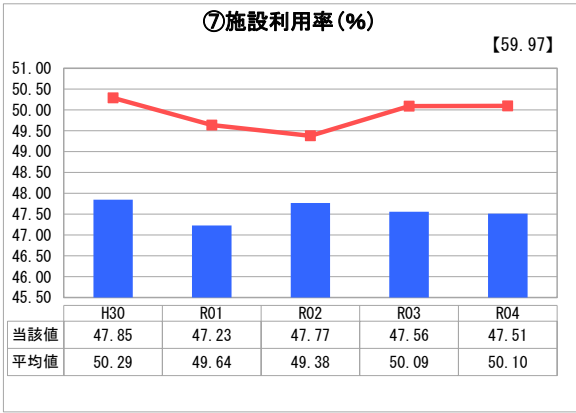
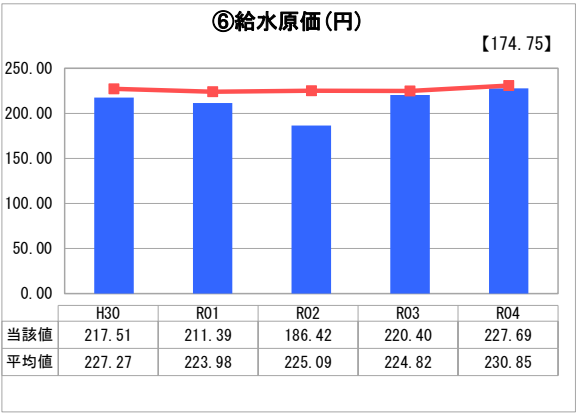
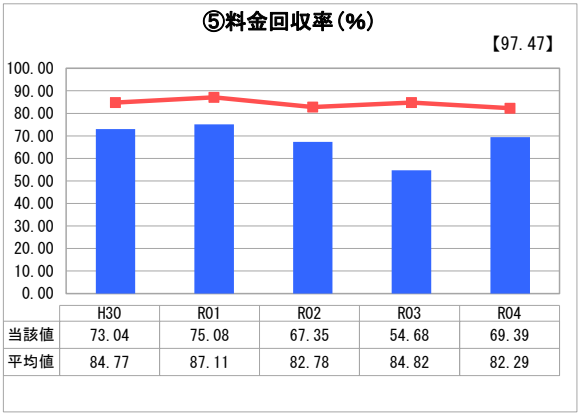
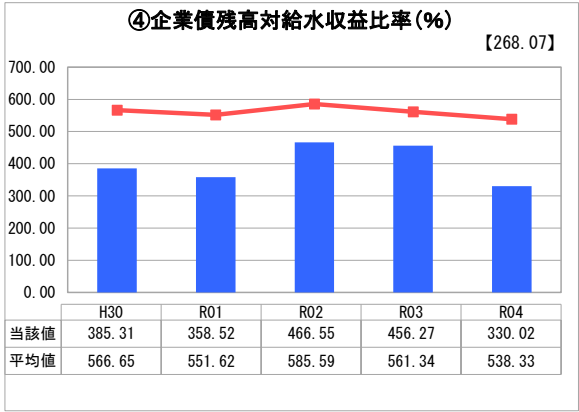
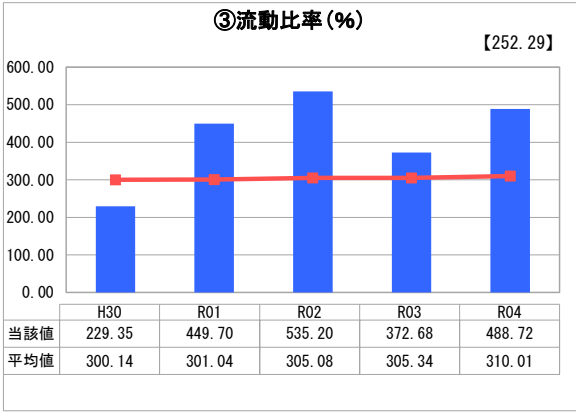
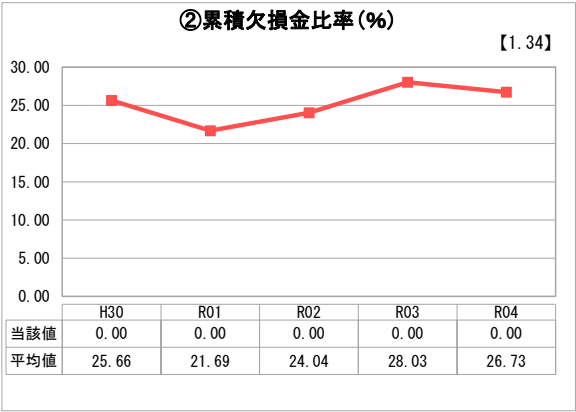
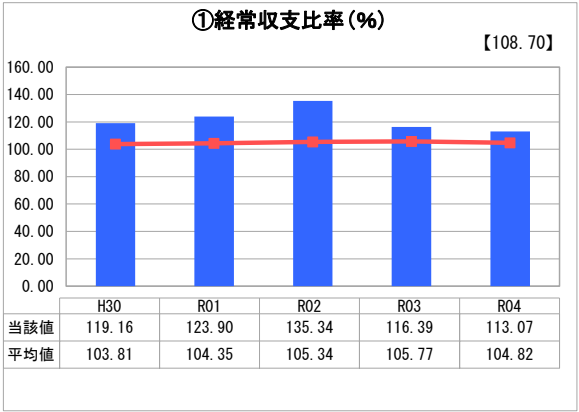
沖縄県 宜野座村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	83.16	100.00	2,387	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,303	31.31	201.31
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
6,340	15.17	417.93

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



1. 経営の健全性・効率性について

①各年度の収支は黒字となっており、また平均値を上回っていることから健全な状況といえるが、村の一般財源からの繰入によることが大きく、今後の施設投資等にかかる費用を確保するには、更なる費用削減に取り組む必要がある。

②累積欠損金が発生していないことから、健全な経営を維持している。

③類似団体平均値より高い値を維持していることから、支払能力は十分な状態である。

④企業債残高対給水収益比率は類似団体平均値より低いものの平成30年度から始まった浄水場改修工事の他、管路更新工事を予定しており、今後も企業債残高の増加が見込まれる。

⑤平成23年度に料金改定を行っているが十分な料金水準とはいえず、料金回収率は平均値を下回っている。今後、料金改定に向けて検討していく。

⑥類似団体平均値を下回っているが、全国平均値に近づけるよう、今後も維持管理費の削減に努める。

⑦施設利用率が類似団体平均を下回っているのは、当初予定していた、大口の需要が少ないことが要因となっている。今後、リゾート開発が予想されるため、類似団体の平均を上回る見込みである。

⑧これまで漏水の早期発見と早急な修繕を行ってきた結果、平成29年度以降有収率を80%以上維持している。引き続き漏水調査を行い、さらなる有収率の向上に努める。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率が類似団体平均値よりも高く、法定耐用年数が近い資産が多くなってきていることを示していることから、今後の更新等の財源を確保していく必要がある。

②管路経年化率については、40年経過している管がまだない為、0.00値となっているが、これから増加する見込みとなっている。重要管路から優先して更新を行っていく計画である。

③管路更新率については、20年以上経過した管路から、優先箇所を選定して行っていくが、莫大な費用を要するため更新計画に基づき慎重に行う必要がある。

全体総括

今後は、配水池の増設や老朽管の更新など、建設投資の増加が見込まれ、財源の確保が必要なことから、経営戦略に基づき効率的な事業運営に取り組む必要がある。

2. 老朽化の状況

